

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.6

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

津波被害を受けた農地の復興を目指して、栽培実験を行っています

農林畜産復興推進部門農地復興班では、津波で海水に浸されたことにより、塩害が発生した現地の土壌を回復する目的で、昨年度、久慈市の農地にソルガムを播種し、除塩を試みるとともに土壌の化学性の継続的な測定と農地復興の可能性を調査しました。

ちなみにソルガムは比較的塩濃度の高い環境でも生育できるとともに、バイオマスが大きく、除塩効果が高い植物として知られています。

今年度は昨年度に引き続き、農地復興班長の河合成直教授(農学部)を中心に、久慈市の農家にご提供いただいた農地を、無施用区、無作付け区、化学肥料区、堆肥区、鶏糞+フェザーミール区、鶏糞+フルボ酸資材区、赤土客土+化学肥料区、無作付け区の8つの実験区(1区画3メートル×3メートル)に分け、施肥を完了しました。

この実験区では、昨年度と同じソルガムを播種するとともに、生育調査、植物活性調査、土壌の電導度の調査を行う予定です。

また、新たに陸前高田市竹駒地区の農家に提供していただいた実験区でも、無施用区、化学肥料区、堆肥区、鶏糞区をそれぞれ2カ所、合計8カ所(一区画4.8メートル×4.8メートル)設けました。

陸前高田市の実験区では、現地の農家の技術により、例年通りの方法でキュウリを栽培していただき、土壌の化学性の変化の経時的調

査、作物の生育調査、土壌微生物の生物相の調査、植物の光合成能や気孔開度の調査を定期的に行う予定です。なお、こちらの実験区では、松嶋卯月准教授(農学部)のグループも加わり別の栽培試験も行う予定です。

ソルガム...イネ科の一年草の植物・穀物でもロコシともいいます。



久慈市内の実験区

三陸の水産業復興に向けて、重茂漁協を視察しました

平成24年6月4日、岩手大学三陸復興推進機構水産業復興推進部門の教員等14名が、宮古市重茂の重茂漁業協同組合を視察しました。

今回の視察は、水産業復興推進部門の水産新素材・加工技術・加工設備開発班の班員が中心となって行われたもので、三陸水産業の復興に関する連携推進協定を締結している東京海洋大学及び北里大学の教員も参加しました。

今回の視察にご協力いただいた重茂漁協は、ワカメや昆布、サケ、ウニなどを主力生産品とし、また、自前の加工施設を有しており、加工品の販売も行っています。視察では、重茂漁協の復興の取り組みなどについて説明を受けたほか、加工施設の見学などを行いました。参加した教員等は、今後の取り組みの参考にすべく、漁協の担当者の方の説明に真剣に耳を傾けていました。

また、視察に先立って、3大学の教員等による意見交換会が行われ、三陸の水産業関係者のニーズをどのように汲み取るか、また、大学が提供できるシーズをどのように伝えていくか、といったことが話し合われました。

岩手大学では、三陸の水産業の復興のため、今後も地元の方々との話し合い等を通じて積極的に活動していきます。



重茂漁協参事からの説明風景

